



10月5日(日)「黒山三滝ハイキング」に出かけました。“黒山三滝”は、埼玉県越生(おごせ)町にあります。池袋から東武東上線で坂戸に行き、東武越生線に乗り換えて越生へというルートが一般的です。でも、八高線を利用することに慣れているので、八王子から八高線で高麗川まで行きます。ここで乗り換えて二つ目の駅が越生です。“八高線”は八王子から高崎を結ぶ線路です。“川越線”は大宮から川越を通り高麗川までを走っています。“埼京線”ができて、川越と新宿を結びました。これによりそれまでディーゼル列車が走っていた川越線が電化されました。しばらくして、“八高線”の八王子と高麗川の間が軌道車から電車に変わりました。残されたのは高麗川から高崎のルート。トラックのディーゼル車の排ガス規制が話題に上がっていますが、ディーゼル軌道列車は、昔懐かしい感じと、とても遠くを旅しているような気持ちになれます。

“黒山三滝”もそんな観光地のようで、ノスタルジックな雰囲気。そして、そこから先のハイキングコースも舗装された林道(?)との闘いで“むかし道”をたどるのが...



## 点と線をつなぐと9時集合

今回の集合時刻は9時とのんびり。山歩きは、朝早く出発し、余裕をもって陽が沈まぬ前に下山するのが基本ですが…。越生駅から黒山へ向かうバスの本数が少なく、八王子駅から出ている八高線(これも本数が少ない)の中で、高麗川駅でうまく接続して高崎駅に向かう列車なんて数本なのです。乗り継ぎが安全確実に待ち時間になるべく短いという、“点と線”を結んでいくとこのようになりました。

9時に集合。9時25分の八高線で高麗川駅下車が10時11分。乗り換えて10時22分出発し、越生駅に10時33分に到着。黒山へのバスは10時50分に出て、現地到着は11時16分。

## 河合さんはケガで不参加、 桜井さんはケガで参加

9時八王子駅横浜線ホームには、小野勝彦さん、桜井利子さん、加藤忠さん、宮部夫妻、横山和明さん、加藤さんの友人横倉正俊さん、町田行弘が集まりました。加藤さんと横倉さんは、古淵のジャスコ内にあるスポーツクラブで知り合ったそうです。横倉さんの仕事は墓石屋さんということ。

加藤さんの奥さんは、揖斐さんとともに、相模原補給廠の駅伝大会に参加するという。町田は、揖斐さんと橋本駅の改札で会い、そんな会話を交わしました。

河合さんは、怪我(またっ!)で不参加ということ(加藤情報)。そういえば、町田宛に題名なしで“今月のハイキングは欠席しますあしのこしょうのため”というメールが届いていました。“park-enjoy@……”(?)なるほど、河合さんからのメールだったんだ!河合さんは、町田市役所で公園管理関係の仕事をしているからね。

桜井さんは、本当は泊まりがけの登山に出かけていて、参加できないはずでした。ところが、息子さんが車にひかれて入院してしまい、旅行計画はとり止めとなります。息子さんの怪我は大事にいたらず、元気に退院したので今回の参加となりました。「どんな事故だったんですか?」「いえねえ、新たに赴任した職場で書類を抱えて歩いている時に」桜井さんの息子さんは、町田市役所勤務です。加藤さんが「それ、リサイクルセンターの事故じゃない?確か、おれが休みの日にそんな事故があったって」その通りでした。

人との“縁”は不思議ですね。こんな話で盛り上がっているうちに八高線の出発です。予定通りに高麗川駅に着き、電車の八



高線からディーゼル軌道車の八高線に乗り換えしました。そして、二つ目の越生駅で降り、“黒山”行のバスに乗ります。終点の“黒山”バス停に着いたのは、11時16分(予定通り)でした。

## 黒山三滝で気分を盛り上げて

バス停から100mほど歩くと、“黒山三滝入口”“日本観光百選”などと書かれた門がありました。“日本観光百選”とは?いつの時代に?門を越えて、少し上り坂の道を進むと、右側に“黒山鉱泉館”、さらに10分ほど歩くと、左側に越辺(おっぺ)川にかかる小さな橋があり、この先に“天狗滝”があります。薄暗い岩場の奥に“天狗滝”は落ちていました。本来は、素直に元来た道を戻り、“男滝”へ向かうのですが、みなさん、山道に飢えているのか(?)上に向かう道を進みたいみたい。「こっちでいいですか?」「行ってみましょう」整備された遊歩道を少し行くと分岐があり、私たちが目指すのとは違うハイキングコースの入口のようです。もう片方は、下りで、“男滝”へ向かう道に合流しそうなので、こちらを進みます。ちょっとしたウォーミングアップでした。

懐かしい感じの(古い観光地にありがちな)土産物屋を越えと“男滝”が見えてきます。それほど大きな滝ではありませんが、ちょうど滝の中に虹ができていてちょっと感激。暫し見とれます。少し下り、橋の上から今度は“女滝”を眺めます。さらに小さな静かな滝です。これで“黒山三滝”は終わり、私たちとしては、呆気ないというか、“日本観光百選”って…何?という感じがな。さて、本当の目的のハイキングを開始しましょう。ここでも、山道に飢えているためか、目の前の上り坂に足が向いてしまいそうでした。確認をして、メインストリートを少し戻ると左側に“関八州見晴台”へ向かう山道がありました。







## 墓石で鍛えた身体

時刻は12時ですが、これからハイキングが始まるわけで、昼食というわけにはいきません。“関八州見晴台”でお弁当をひるげることを出発。

いきなりきつい上りが始まり、“男滝”の上に出ます。5分ほど歩くと、ちょっとスリルのあるクサリ場がありました。ここで、私たちと同じルートを楽しもうという女性ハイカー二人に追いつき、先を譲ってもらいました。これから面白くなってきそうと思ったら、舗装された林道に放り出されてしまいました。山道に入っただけで15分。林道を歩くこと約10分、左にハイキングコースの入口がありました。薄暗い林の中を上って行きます。しばらくすると、陽当たりのよい山の斜面の道に変わりました。周りに高い木々が全くないので、遠く先



を歩く宮部夫妻と桜井さんの姿もよく見えます。宮部（旦那）さんがデジタルカメラでこちらを撮っているのもわかります。そう、今回は宮部さんもデジタルカメラを持って来て、所々でシャッターを押しています。振り返ると、山越に平野の街の広がりが見られますが、どの辺りなのかはちょっと不明。日だまりの斜面を上るうち汗ばんできて、再び林道に出たときには、みんな汗だく。横倉さんは途中でタンクトップ姿になっていました。筋肉隆々なのは、墓石を持ち上げているからではなく、スポーツクラブで鍛えているからです。

## コースアウト

舗装された林道で一休みして、少し歩くと林道の分岐に着きます。「どっちですかね」と聞かれた町田は、林道にかかる道路標識を確認して「こっちです」とV字に右方向に歩き出しました。ところが、これが、コースミスでした。私たちが歩き始めたアスファルトの林道は“奥武蔵グリーンライン”だったので。目指していた“関八州見晴台”は、この林道の北にある山道のコース上にあるのです。そして、私たちは、山道のコースへの入口を探しながら林道を歩き続けました。

サイクリングを楽しむ若者が次々に横を走り去ります。おかしいなあと思いながらも、進んでいる方向は間違っていないので、歩き続けました。すると、右手に“関八州見晴台”の標識、左手に“高山不動尊”の標識、そして、ここは“高山”。ここで、コースミスを確認しました。時刻は13時30分、本当なら“関八州見晴台”でお弁当のはず。ここから“関八州見晴台”へは15分ほどなのですが、たまたま(?)営業していない“鳥居茶屋”の軒先にテーブルと椅子をみつけ、「ここで昼にしましょう」がみんなの気持ち、そうします。



## ちょっと一杯

テーブルと椅子のホコリを拭いて、お好みの場所に座ってお弁当をひるげます。サイクリングのグループも、少し先のやはり営業していないお茶屋の駐車場で昼ご飯のようです。それにしても、8月に行った「富士山吉田口登山道」で見かけた廃業したお茶屋跡など、世の中便利になって、その存在の必要がなくなってしまったのでしょうか。ちょっとつまみ食い、ちょっと一杯っていうのがいいんだけどなあ。現代のお茶屋は“道の駅”なのでしょうか…?







## また会いました

14時、“関八州見晴台”を目指して出発します。公園のような広がりのある丘を上って行くと、舗装された林道に出ます。これは、先ほど歩いていた“奥武蔵グリーンライン”の延長。すぐに、“高山不動尊奥の院”の入口があり、なだらかな山道を上ると間もなく“関八州見晴台”に到着しました。ここに、“高山不動尊奥の院”があり、標高は771.1メートルです。ここは、ほぼ360度の展望が楽しむことができ、富士山も見えるようです。ただし、この日は雲が多く、富士山は眺めることができませんでした。すっきり晴れた日の展望は想像することができました。

みんなで記念撮影を終えた時、クサリ場で出会った女性ハイカー二人と会いました。「どうやってここまで来ましたか？グリーンライン？」「グリーンラインの手前に右に入る場所があって、そこから来たんですけど、結構きつかったですよ」



## 油断大敵だね

彼女たちと別れ、昼食を摂った場所まで戻り、“高山不動尊”へ。ここからの下山コースはいくつかありますが、目指すのは最終的には“西吾野駅”途中のポイントは“萩ノ平”です。今回は、コースミスしそうになったのが2回、コースミスが1回ありましたから、ここは慎重に！歩き始めていきなり上り始めたのでビックリしましたが、杉林の中を歩いて行くと、“萩ノ平茶屋”に着きました。しかし、ここも休業中。そして、さらに薄暗くなってきた杉林の降りて行くと西武線が見え、車道に出て、16時過ぎに“西吾野駅”に着きました。



それにしても、標識の少ない、わかりにくいハイキングコースだったなあ…。でも、たいしたコースではないという気持ちで臨んだ結果なのかも？





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591
加藤忠	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
宮部香与子	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662
横倉正俊	194-0033	東京都町田市木曽町 526-6 042-726-9145

